NRU
国労せんだい
こくろうせんだい
FAX版
号外
2011年3月26日
発責　橋本 昭二
編責　武田 昌仙

東北地方太平洋沖地震

全国からお見舞い続く

稚内闘争団からも義援金

カンパを受け取る訳にはいかない＝地本

稚内＝皆さんの支えで闘ってこれた

3月25日、稚内闘争団から仙台地方本部に対し、この度の被災に対しての支援カンパの申し出があった。

同闘争団からは、既にお見舞いと支援の要請を受けていたが、再度支援の具体化を申し出られた形だ。

申し出を受けた地本橋本委員長は、感謝の意を伝えつつ、「苦しい思いをしている皆さんからカンパを受け取る訳にはいかない」と固辞をしたが、「闘い続けられたのは、仙台地本の皆さんに支えられたから」という固い決意の申し出に、「被災した組合員に届けさせてもらう」と快く闘争団員と家族の気持ちを受け取ることとした。

被災した真砂婦人部長から近況報告

洗濯が出来ないけれど頑張る

今日もヘドロと悪戦苦闘しております。

長男は昨日から学校が始まっており、頭から下まで泥んこだらけで教壇に立っております。

電気・水道が通っていないので洗濯が出来ないのです。

「これも仕方ない。小学生の子供たちに命の尊さを教えていく」と言っています。

また、赤ちゃんが生まれたばかりで、不安で泣いていた娘も落ち着きを取り戻し、「子供に命の尊さを伝えていきたい」と言っています。

多くの仲間からの励ましのメッセージに支えられて、またこちらでも沢山の友達に支えられ、今日も元気に頑張っております。【3月24日　現地からのメールより】

見えない敵に恐怖と怒り

地震の余波の影響が、一向に収まる気配を見せない中、原発の破損による影響が拡大している。

マスコミは政府と東電の発表を危機感をもって指摘、追及するよりも、「擁護」とも取れる報道を続けてきた。しかし、恐れていたことがついに現実のものとなってしまった。作業員の被ばくである。東電のずさんな作業管理も、こうした「事故」が発生してから明らかになっている。

政府・東電の後手後手の対応と隠蔽体質、放射能という見えない敵の情報不足に恐怖と怒りが蔓延していると福島の仲間は訴えている。

お見舞いの連絡を頂いた組織

【敬称略】

3月15日
国労博多闘争団
団長　神宮　義秋

国労高崎地本
執行委員長　横塚正雄
組合員一同

3月16日
国労博多地区本部
執行委員長　今村正成

闘争団全国連絡会議
議長　神宮　義秋

国労宮崎県支部
執行委員長　国部明宏

国労宮崎闘争団
団長　松村秀利
組合員一同

3月17日
国労静岡地方本部
執行委員長　森田豊次
執行委員一同

3月21日
国労音威子府闘争団
闘争団員・家族一同

※新潟地本を始め、各地区本部・地方本部からも物資支援を頂きました。本当にありがとうございました。